

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	史学専攻日本史学 専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答例（採点時の観点）】					
本英文は、1609 年のオランダ東インド会社の来航と徳川家康との交渉を例に、近世初期の欧州とアジアの外交関係を再検討したものです。従来の欧州主導的理解に対し、欧州側がアジアの政治秩序や商業ネットワークを十分理解できず、交渉に苦慮した点を指摘し、外交が相互調整の過程であったことを論じています。 採点にあたっては、①事例（1609 年 VOC 来航・家康との交渉）の把握、②主題（欧州主導像の再検討）の提示、③論点（アジア側秩序・商業ネットワーク理解の困難）の言及、④結論（外交＝相互調整過程）の理解、という四つの要素を踏まえ、その網羅性と論理的接続を重視しました。					
【出題の意図】					
本問は、日本史に関する英語文の読解力を前提に、具体的事例を踏まえて論旨を的確に読み取る力を測るとともに、日本史の事象を欧州とアジアの関係という広い視野から捉え、従来の歴史理解を相対化する問題意識を読み取れるか、さらにそれらを論理的な日本語で表現できるかを評価することを目的としています。					
合否判定の方法及び基準					
入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。 合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。					